

## 大阪市西成区の住宅街の中に残る「湿地」 ～生育する植物相の報告～

長谷川匡弘・藤井俊夫・佐久間大輔

はじめに

多くの都市は河川下流部の沖積平野に発達しており、都市になる前には湿地環境が豊富にあったと考えられます。大阪も淀川・大和川などの河川によって作られた沖積平野を中心に発展してきており、明治時代の地図を見ると、あちこちで多くの水田、湿地、荒地などが見られます。人口が増加してくると、これらの水田、湿地、荒地は埋め立てられて、住宅地、工場などになっていきました。このため、大阪だけではなく、都市部では水田など耕作地も含めて、湿地環境がきわめて少なくなっているのが一般的です。湿地環境、緑地が減少し、コンクリートに囲まれて乾燥した都市部では、公園、空き地には湿った環境を好む植物はほとんど見られなくなり、乾燥に比較的強い植物、特に外来植物が多くみられるようになっていきます。湿った環境に生育するタネツケバナ、コオニタビラコ、ヒメガマ、ヨシなどの植物は、郊外や河川周辺では普通に見られますが、都市部では桃ヶ池、万代池など、都市公園の中にある池の周囲や、わずかに残された水田の中に見られるにすぎません。

しかし、大阪では都市化が進んでもまだ、湧水が出る様な環境が上町台地の西側に見られたようです。生玉寺町から夕陽丘町にかけて、上町台地に沿って多くの寺院がありますが、その裏手には、湧水を利用した池が点々と残されていました。また、地元の方に伺うと、天下茶屋周辺では湧水があちこちで見られたようです。ただ、現在ではほとんどの場所で水が枯れてしまっているか、改変されて湧水地はなくなっています。

このように街の中から湿った環境はほとんどなくなっているのが現状ですが、プロジェクトUの調査によって、都市化が著しい大阪市の中にも極々わずかですが、「湿地」が残っていることがわかりました。

### 西成区に残っていた湿地

博物館友の会会員でもある、大島新一郎さんから、「空き地にヨシ群落がある場所があり、湿地のよう

になっている」というお話を伺ったのは2012年のことでした。伺った場所は地図で見ると、住宅地の真ん中で、周囲に池があるわけでもありません。その時には、まさかこんなところにヨシが生える環境が…と思いました。そのような環境は埋め立てられてしまい、空き地であっても乾燥した状態になっているのが普通です。

その場所には2012年9月19日に初めて行きました(佐久間・長谷川, 2013)。フェンスで囲まれたその空き地には確かにヨシやガマ類が多く生育していました(図1)。また、その下には水がたまっており、湿地になっていました。空き地の奥にはコンクリートの擁壁があり、その基部から水がわきだしているようで、深いところでは水深50センチほど水が溜まっていました。湿った環境は空き地の3分の2程度に広がっていて、おおよそ数～10センチ程度の水深があります。空き地の中には、やや高くなっているところもあり、そのようなところは乾燥して、普通の空き地に見られるような乾燥に強い外来種を中心とした植物が多く見られました。

この空き地がある場所は、やや標高が高くなった上町台地の西側になり、ちょうど生玉寺町から夕陽丘町にかけて、寺院の裏に湧水が出ていた場所と状況は似ています。石井陽子学芸員が取りまとめた付近の小学校等のボーリングコアの調査によると、こ



図1: 大阪市西成区にある「湿地」。湧水があり、小さい空き地に湿地性の植物が生育している。

の辺りでは地表近くまで不透水層である海成粘土層が出ており、湧水が出やすい状況になっているようです（大阪市立自然史博物館, 2014）。

大阪では湿地がほとんどなくなりましたが、湧水によって涵養されているこの場所にはどのような植物が残っているのでしょうか？この場所の植物については特別展「ネコと見つける都市の自然 一家の中から公園さんぽー」の中でも紹介をしていますが、ここでは四季を通じて調査を行った結果について、もっと詳しく報告したいと思います。

調査地・時期・調査方法

調査地：大阪府大阪市西成区天下茶屋東2丁目。25m×15m程度の空き地。

調査時期：2012年9月19日、2013年5月1日、10月30日、2014年5月29日、7月4日、7月20日

調査方法：調査地内の植物相を記録しました。ガマ類はさらに詳しく葉の形態、雌花群の形態、花粉などを調査していますが、別に報告する予定です。

調査結果

この空き地では調査の結果、21科55種の植物が確

認されました（表1）。コンクリートの擁壁に近く、比較的水深の深い場所では、ヒメガマ（図2A）が多く群生しており、スイレン属の植物も確認できました。スイレン属の植物は日本在来のものではなく外来種でしたが、このような浮葉植物が生育しているのは、年間を通じて水があることを示しています。浅い湿地になっている場所は、ヨシを中心としてヒメガマが少し混じる群落となっていました。その下には、イグサ、ヒロハホウキギク、タネツケバナ、コウガイゼキショウ（図2D）、アイダクグ、タマガヤツリ、メリケンガヤツリなど見られました。特にメリケンガヤツリは多く、群落を作っていました。一部にガマ（図2B）、コガマ（図2C）がまとまって生育しており、その周囲にアメリカタカサブロウ、アメリカセンダングサが見られました。水は溜まっていますが湿り気のある場所には、ホソイ（図3E）、イグサが群落を作っていました。空き地の3分の1程度は乾燥しており、そのような場所では、コマツヨイグサ、アキノエノコログサ、エノコログサ、メリケンカルカヤ、タチイヌノフグリ、ヘラオオバコ、ヨモギ、ウラジロチチコグサ、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、オラン

表1：天下茶屋の「湿地」で確認された植物種のリスト。

科名	種名	生態情報	科名	種名	生態情報
スイレン科	スイレン属	外 *	アカバナ科	コマツヨイグサ	外
ドクダミ科	ドクダミ		マメ科	ヤハズエンドウ	
ツユクサ科	ツユクサ		カタバミ科	ムラサキカタバミ	外
カヤツリグサ科	アイダクグ	*		オッタチカタバミ	外
	タマガヤツリ	*	アサ科	ムクノキ	
	メリケンガヤツリ	外 *		エノキ	
	コゴメガヤツリ	*	アブラナ科	タネツケバナ	*
	アオガヤツリ	*	キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	外
	ハマスゲ		アカネ科	ヤエムグラ	
イグサ科	イグサ	*		ヘクソカズラ	
	コウガイゼキショウ	*	シソ科	マルバハッカ	外
	ホソイ	*	オオバコ科	ヘラオオバコ	外
イネ科	メリケンカルカヤ	外		タチイヌノフグリ	外
	ヤクナガイヌムギ	外		ムシクサ	
	メヒシバ		セリ科	チドメグサ属	
	チガヤ		キク科	ヨモギ	
	シマスズメノヒエ	外		ヒロハホウキギク	外
	キシウスズメノヒエ	外 *		アメリカセンダングサ	外 *
	ヨシ	*		アメリカオニアザミ	外
	ヒエガエリ			ヒメムカシヨモギ	外
	アキノエノコログサ			オオアレチノギク	外
	エノコログサ			アメリカタカサブロウ	外 *
ガマ科	ヒメガマ	*		ヒメジョオン	外
	ガマ	*		ウラジロチチコグサ	外
	コガマ	*		セイタカハハコグサ	外
ヒユ科	ヒナタイノコヅチ			セイタカアワダチソウ	外
ナデシコ科	オランダミミナグサ	外		オニタビラコ	
タデ科	イタドリ				

1. 生態情報列の「外」は外来種、「\*」は湿地を好む種であることを示す。  
 2. 科名、科の配列は日本維管束植物目録（米倉, 2012）に従った。



図2：天下茶屋の「湿地」に生育する植物。Aヒメガマ、Bガマ、Cコガマ、Dコウガイゼキショウ、Eホソイ。ヒメガマは花序先端の雄花群とその下の雌花群が離れる。コガマ、ガマは雄花群と雌花群が近接する。また、コガマはガマよりも葉が細くなり（幅は1 cm以下）、雌花群も比較的小さくなる（角野，1994）。

ダミナグサなど、周囲の都市公園・路傍で普通にみられるような植物が多く、特に外来種がよく目立ちました。

#### 考察

この空き地で確認された55種の内、24種は外来種でその割合は43.6%になります。外来種の割合で見ると、周囲の都市公園の値とそれほど異なるものではありませんでした。よく出てくる外来種も周囲の路傍、公園と似通っていました。狭い空き地であるがために、周囲の影響を非常に強く受けているのでしょう。また、種数の上では在来種より少ない外来種ですが、ヒメムカシヨモギ、メリケンカルカヤ、メリケンガヤツリ、ヒロハホウキギクなどは優占していました。

しかし、これらの外来種や乾燥した環境でも生育できる種類以外に、都市部では見ることが少なくなった湿地を好む在来種も12種確認されました（表1）。このような植物の中で、湿地部に優占するヨシとガマ類についてもう少し詳しく見ていきましょう。

ヨシはごく普通に見られる植物ですが、大阪市内では乾燥した環境が多く、公園の池周辺、淀川、大和川など河川の河口などを除くとヨシ群落が確認されることはほとんどありません。本調査地のような住宅地の中の空き地に残っていることは稀でしょう。本調査地のヨシは、茎の片方に葉がつく、いわゆる「片葉の葦」と呼ばれるものが多くみられました（佐久間・長谷川，2013）。片葉の葦は分類学的にはヨシと同一で区別する必要はありませんが、各地に民話、伝説などが残っており、民俗学的には興味深いものでしょう。

ガマ類は、日本では在来種として3種類が記録されています（秋田県のモウコガマを在来種として加えるのであれば4種（倉園知広・角野康郎，2012））。本調査地では面積が小さいながら、この3種、ガマ、ヒメガマ、コガマがすべて見られました。いずれの種も都市部では見る機会が減っていますが、ヒメガマは桃ヶ池、長居植物園大池など都市公園の池の周囲で現在でも生育しています。ヒメガマは、前にも触れましたが、やや深い場所、水深30-50cmのとこ

ろに特に多く見られました。また、ヨシ群落の中にも混じっており、本調査地の中では最も多く見られます。

残りの2種コガマ、ガマは大阪市内ではほとんど見ることができません。特にコガマは大阪府全域でも生育地が少なく、「大阪府レッドリスト2014」で準絶滅危惧種となっています(桑島, 1990、大阪府, 2014)。大阪市内では南港で採集されたことがありますが、そのほかでは記録がありません。この場所では、コガマとガマは水深が浅いところか、湿っているが、水がほとんどたまっていないところで見られました。花茎数はヒメガマよりもかなり少なく、両種とも30程度です。この湿地のガマ類については、さらに詳しく検討しましたので、別に改めて報告したいと思います。

今回紹介した空地は非常に小さいもので、普段何気なく歩いているだけでは、私も見逃してしまっていたかもしれません。しかし、詳細に調査をしてみると、外来種は多いものの、都市部では稀な湿地環境を好む植物がよく残っていました。ただ、この空き地はずっとこのような状態だったわけではないようです。近所の方の話では、かつては長屋が建っていた時期もあったようで、すべての植物が、もともとこの地やその周囲にあったものなのかどうか分からず、持ち込まれたものや、持ちこまれた土などに

混じていたものである可能性も否定はできません。しかし、ほとんどがコンクリートに囲まれた大阪市内の中で、湧水によって保たれている「湿地」が存在すること自体が非常に稀で、貴重な環境であると考えています。

＜はせがわ まさひろ：博物館学芸員・ふじい としお：兵庫県立人と自然の博物館・さくま だいすけ：博物館学芸員＞

謝辞：調査地について初めてご教示いただき、その後の調査についても手続等でお世話になった大島新一郎氏をはじめとするなにわ片葉の葦保存会のみなさま、一緒に当地を調査・また、議論をしていただいた故・辻井隆昭氏、梅岡宏史氏、調査にご協力いただいたプロジェクトUメンバーの皆様、大阪平野のボーリングコアの調査結果についてご教示いただいた石井陽子学芸員に厚く御礼申し上げます。

#### 参考文献

- 角野康郎 (1994) 日本水草図鑑. 文一総合出版社.  
 倉園知広・角野康郎 (2012) 日本のモウコガマ：兵庫県産「モウコガマ」の再検討. 分類12 (2), 141-151.  
 桑島正二 (1990) 大阪府植物目録. 近畿植物同好会.  
 大阪府 (2014) 大阪府レッドリスト2014.  
 大阪市立自然史博物館 (2014) 都市の自然2014 第45回特別展 ネコと見つける都市の自然一家の中から公園さんぽ一解説書. (表紙見返しの附図2)  
 佐久間大輔・長谷川匡弘 (2013) プロジェクトU都市の自然調査レポート片葉の葦の茂る湿地. Nature Study 59 (11): 8.

## 「ホネホネサミット2014」のご案内

ホネホネサミットは、博物館や大学などを舞台にホネの標本づくりをしている団体や個人、さまざまな形でホネの標本づくりに関わっている人たち、そしてホネに興味のある人たちが交流するイベントです。

いろいろな団体や個人が、それぞれが作ったホネの標本を展示したり、活動内容を紹介します。動物に興味のある多くの方のご来場をお待ちしています。

- ◆開催日：10月12日(日)～13日(月・祝)
- ◆会場：大阪市立自然史博物館 ポーチ・本館
- ◆入場料：無料(ただし博物館の展示を見るには入館料、植物園に入るには入園料が必要)
- ◆主催：なにわホネホネ団、大阪市立自然史博物館
- ◆出展者(7月27日時点、さらに増える予定です)：

アクア・トトぎふ 骨部、芥川緑地資料館(あくあびあ芥川)、奄美骨部、いぞらど isolado、イワシ金属化、岩手大学 自然史探偵団、小木曾チエ、(株)かふえびとう / CafeSlowOsaka、京都大学大学院地質学鉱物学教室 古脊椎グループ、群馬県立自然史博物館、魁!!骨塾、佐

藤寿哲、佐藤真央、四国自然史科学研究センター+漁師のNPO、樹脂会!、スカルチュラ&はにわや工房、なにわホネホネ団、ひこばえ団(成安造形大学小田ゼミ)、平田泰紀、福井市自然史博物館・骨部、プレーメンの骨格隊、プロジェクトとっかり、ペンギン屋の透明標本、マンタム、ミノル、渡邊太朗

◆主な内容：詳細は、ホネホネサミット2014ホームページ <http://www.omnh.net/np/hone2014/>参照。

- ポスター展示：活動紹介や標本づくりの工夫や自慢
- ブース出展：標本の展示や参加型の企画など
- 講堂プログラム：口頭又は実演付きで、骨格標本作成の技、ホネを使った教育プログラムや活動を紹介しします。また、招待講演も予定しています。

◆その他：出展申込みは、いったん締め切っていますが、どうしても出展したい方は、対応できますので、事務局までご相談ください。

◆問合せ：動物研究室・和田まで